

合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガの防除に効果が高い薬剤						
〔要約〕合成ピレスロイド剤抵抗性のミカンハモグリガに対してオリオン水和剤1,000倍が有効である。						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	普及
平成5年度長崎県果樹試験場業務報告						

〔背景・ねらい〕

平成4年夏から合成ピレスロイド剤に抵抗性のミカンハモグリガが県下に発生し始め、平成5年には全域に広がったため、防除が困難になっているので、これに有効な薬剤を選択した。

〔成果の内容・特徴〕

合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガに対して、オリオン水和剤1,000倍が有効で、カンキツの新葉に薬害もない。

〔成果の活用面・留意点〕

- ①合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガには、他にデミリン水和剤やノーマルト乳剤、カスケード乳剤などIGR剤が有効であるので（平成4年普及に移せる事項）、新規の薬剤に対する抵抗性獲得遅延対策として、系統の違う薬剤のローテーション散布が必要である。
- ②新葉の発生初期から7日間隔程度で3～4回散布する。

[具体的データ]

表1 合成ピレスロイド剤抵抗性ミカンハモグリガに対する
各種薬剤の防除効果

供試薬剤名	使用濃度 (倍)	被害葉率 (%)	被害度
オリオン 水和剤	1000	16.2	4.3
ミカントップ [®] 乳剤	2000	93.0	67.1
アディオン 乳剤	2000	96.6	64.7
カルホス 乳剤	1000	96.6	75.5
テミリン 水和剤	2000	48.9	23.9
硫酸コチン	800	45.2	9.2
無 処 理		100.0	98.9

散布月日：7月22日，7月30日，8月6日，8月13日

調査月日：8月23日

[その他]

研究課題名：果樹の特殊病虫害発生状況調査

予算区分：県単

研究期間：平成5年度（平成2～8年）

研究担当者：大久保宣雄

既発表論文等：平成5年度長崎県果樹試験場業務報告

残された問題点：なし